

三河武士のやかた家康館

2019年度下半期企画展示予定(特別展示室・1階展示室)

特別展示室 及び 1階展示室		
会期		展覧会名称
始	至	
2019年 8月31日(土)	11月10日(日)	むかしのあそび ～絵双六・郷土玩具の世界～
展示概要	<p>昔と比較すると現在では、生活は飛躍的發展を遂げ、遊びや遊び道具も拡がりを見せました。今でも人気のあるものや、残念ながら現在では目にする機会が少なくなったものまで、様々な遊びや遊び道具が存在しました。</p> <p>今回の展覧会では昔の遊びの中から、「絵双六」と国内各地の「郷土玩具」を中心に展示いたします。「絵双六」は江戸時代後期から明治時代にかけて人気を博し、当代一流の浮世絵師によって描かれました。「郷土玩具」はひとつずつ手づくりで、それぞれに独特な趣を持ち、人々の心を落ち着かせてくれます。</p> <p>本展をご覧になられた後、多くの方が「むかしのあそび」に興味を持っていただければ幸甚に存じます。</p>	
11月16日(土)	2020年 1月26日(日)	武具に込められた祈り
展示概要	<p>戦国時代では、日本全国で大小様々な戦がありました。武将にとって戦で相手に勝つことは至上の目的であり、多くの戦国武将は戦の勝利を祈願して、神仏に祈りをささげました。また、鉄砲玉や矢の飛び交う戦場において自分の身を守ってくれる存在である神仏を武具に刻み、命を賭した戦に臨みました。そのため、武具には神仏を表す梵字やその姿が描かれたものが多数存在しています。平和になり、それらが装飾品としての役割を持つようになってきた江戸時代でも、神仏は武家にとって人気のデザインでした。中でも不動明王、摩利支天、八幡大菩薩は多くの武家が信仰していました。その他にも、よいことがあるようにと祈りを込めた縁起物のデザインも人気がありました。</p> <p>今回の展覧会では、神仏や、武士に喜ばれた縁起物を意匠に取り入れた武具を展示します。これらの資料をご覧いただき、武士や製作者の思いや祈りを感じ取っていただけたら幸いです。</p>	
2月1日(土)	4月12日(日)	武士の心根 拵 ～柳生・尾張を中心に～
展示概要	<p>「拵(こしらえ)」とは刀剣の外装、つまり鞘・柄・鐔およびその付属品のことをいいます。日本刀の拵は「武士の顔と心根」といわれるように、武士ひとりひとりの権威や性格を表す非常に興味深い資料であります。今回の展覧会では、お国拵の中でも、代表的な「柳生拵」と「尾張拵」に焦点をあて、その特徴を作品とともに紹介します。また、その他にも美しく優美なものや、少し変わったものまで、様々な拵を展示します。普段なかなか注目を浴びることがない「拵」の世界をこの機会にどうぞお楽しみください。</p>	

開館時間：9:00～17:00(入館は16:30まで)

入場料：大人(中学生以上)360円・小人(5歳以上)200円

休館日：年末(12月29日～12月31日)

※各企画展の詳細については内容が決定し次第、ホームページ等で随時公表していきます。
 ※都合により企画展のタイトルを含めた内容及び会期を変更する場合がございます。ご了承ください。

三河武士のやかた家康館